



第2章

分野別の状況

1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

平成25年度復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

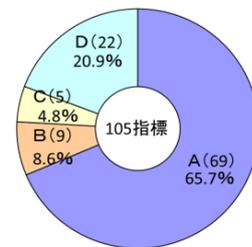
区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 74.3%（78指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 25.7%（27指標）
- 実質的遅れ 21.9%（23指標）**

【対第1期末目標】



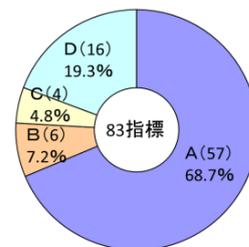
分野

分野Ⅰ 防災のまちづくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.9%（63指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 24.1%（20指標）
- 実質的遅れ 20.5%（17指標）**

【対第1期末目標】

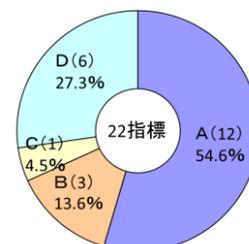


分野Ⅱ 交通ネットワーク

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 68.2%（15指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 31.8%（7指標）
- 実質的遅れ 27.3%（6指標）**

【対第1期末目標】



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年【第 1 回】 いわて復興ウォッチャー調査〔平成 26 年 3 月 28 日〕

○安全なまちづくりについては、「達成した」「やや達成した」の合計が 19.6%と前回（13.7%）を 5.9 ポイント上回り、「達成していない」「あまり達成していない」の合計は 45.3%と前回（48.4%）を 3.1 ポイント下回った。

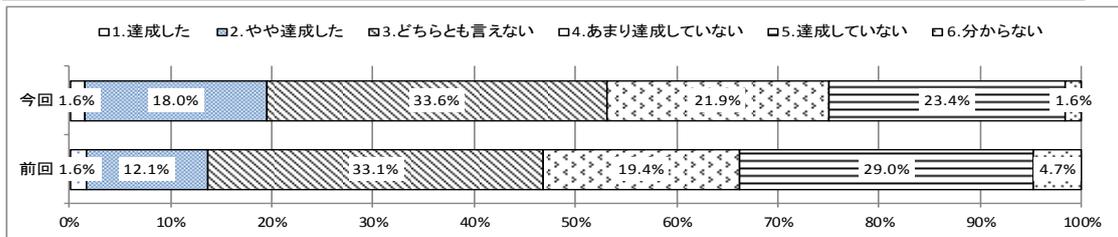
○地域別では、沿岸北部は「やや達成した」が 37.5%（前回は 26.8%）と最も高く、沿岸南部は「どちらとも言えない」が 34.1%（前回は 32.5%）と最も高くなっている。

○直近 3 ヶ月の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が 30.2%と前回（29.0%）を 1.2 ポイント上回り、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は 39.6%と前回（42.2%）を 2.6 ポイント下回った。

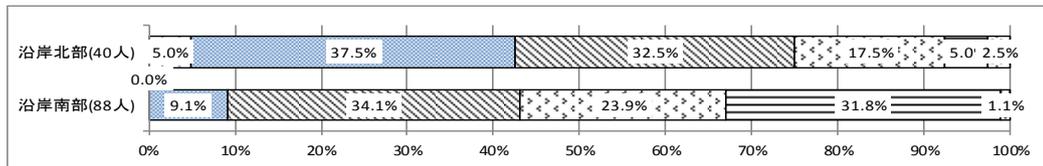
防潮堤等の復興工事の進捗を前向きに評価する声がある一方、交通渋滞への懸念や安全なまちづくりに住民の声が反映されていないことなどへの不満を訴える声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度（震災以降における全体の達成状況）

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

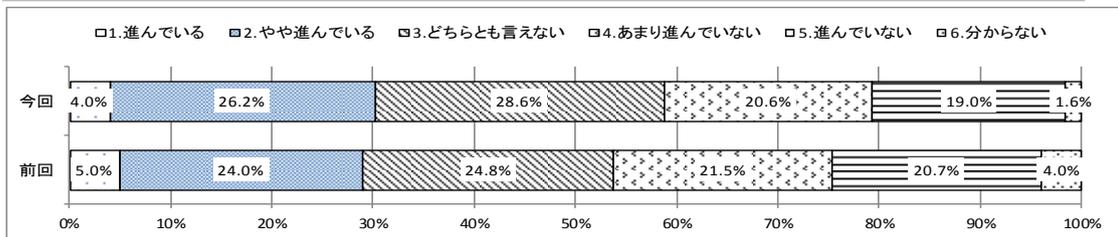


地域別

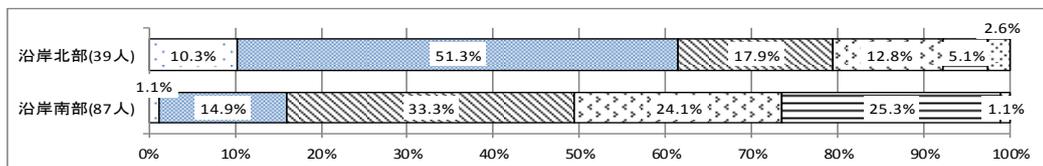


② 直近3ヶ月間（概ね12月から2月）の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の（3ヶ月程度）災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ○ 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆景観等の問題はあるが、防潮堤の工事も進み、安全な町づくり形成に向けて、力強い足音が感じられる。(50歳台、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆避難所の施設は完成したが、そこへ行く橋、道路整備が遅れているので、何かあった場合に孤立する!!(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆防潮堤の整備は目に見える形で進んでいる。また、震災を経験した住民個々人が、安全に対する意識が高いので、話し合いの場でも積極的に討論されたりしている。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性) ◆港の復旧工事はかなり進んでいる。これからは防潮堤と水門の工事だ。こちらは早く進んで欲しい。復興道路建設も進んでいて、地域の皆さんも喜んでる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆漁港周辺は海岸道路嵩上げ工事が進み、水産加工施設の建設も見られ、魚市場も充実してきた。周辺の環境復旧・復興工事が施工進行中ではあるが、命の安心安全や財産を守るための防災施設が、遅々として進まない。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆ガレキ処理も終わり、表面的には進んでいる様に見えるが、防潮堤整備の為に用地取得は足踏状態。中心市街地はJR鉄道を境に防災集団移転地域と区画整理に分別されており、JR山田線の復興・復旧に左右される。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆市内どこを見ても、ダンプ、トラック、その他重機が行き交っている。交通事情の整備など考えてほしいと思う。交通渋滞など、さけられるようにしてもらいたい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性) ◆防潮堤を作れば安全か?と感じる。十年後、二十年後の事を考えた町づくりを考えてほしい。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性) ◆冬季間に長年交通渋滞となり、通勤・通学・物流等の多くに障害を与えていた国道45号の最後の難所と言われた峠が、この3月にトンネル開通となることは、命を繋ぐ安全なまちづくりにはとても大切な意味を持つ。(50歳台、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地震が頻発しているので、又津波が来るのではないかと。何より大切なのはいち早く避難することであるが、R45沿いには海岸線にも関わらず避難誘導の標識がなく、夜間などは特に不安である。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防潮堤は、県が示している高さで決定しているが、地権者の相続や国道の移動、地盤改良、もり土の確保等のため予定より遅れていると聞きますが、早急に着工できると達成感を得られると思います。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性) ◆避難時に必要な道路は舗装が必要だと感じる所が多数あるが、ずっとそのまま。反面、避難路ではなく、路面がそれほど悪くない、人通りもほとんどないような道路を全面的に再舗装しているのには疑問を感じる。避難道路を優先的に総点検してほしいと思う。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆住民全体の防災訓練を行っていないので、一度避難訓練的なものを実施するべきだと思う。工事車両が日中、街中を走り回っているが、また大きな地震が起こったときに渋滞を起こしてしまうのではないかと不安になる。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆防潮堤高の計画には住民の合意形成がほとんどされおらず、住民説明会の参加者はごく一部の町民で、堤防高について2つの案を示し、どちらにしますかというやり方に問題ありと感じている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆高田町は高田松原と、50年前に作った防潮堤が時間を稼いだと思ってます。防潮堤は必要です。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆国や自治体、工事業者の方ががんばりはわかりますが、遅々として進んでいないように思います。(40歳台、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性) ◆防災無線がはっきり聞こえない地域が多数ある。避難場所を案内する市内各地の看板も、ダンプが多数走っているため道路が泥だらけで、土ぼこりで見えなくなっている。(39歳以下、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者



1 防災のまちづくり

1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

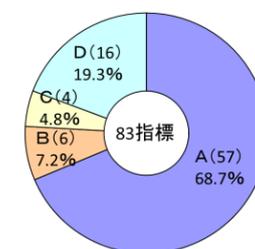
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 75.9%（63指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 24.1%（20指標）

実質的遅れ 20.5%（17指標）

【対第1期末目標】



取組項目

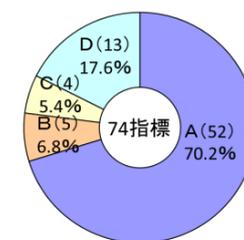
取組項目① 災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 77.0%（57指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 23.0%（17指標）

実質的遅れ 18.9%（14指標）

【対第1期末目標】



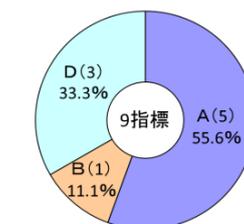
取組項目② 故郷への思いを活かした豊かで快適な生活環境づくり

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 66.7%（6指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 33.3%（3指標）

実質的遅れ 33.3%（3指標）

【対第1期末目標】



1 安全の確保－I 防災のまちづくり

復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 災害廃棄物緊急処理支援事業

○災害廃棄物（がれき）処理量

市町村名	がれき推計量 (千t) 注1	仮置場への搬入量 (千t) 注2	撤去率 (%) ※がれき推計量に対する搬入量の割合	処理量 (千t) 注3	処理率(%) ※がれき推計量に対する処理量の割合
洋野町（ひろのちょう）	20	20	102.4	20	102.4
久慈市（くじし）	82	90	109.7	90	109.7
野田村（のだむら）	131	167	127.7	167	127.7
普代村（ふだいむら）	14	14	100.3	14	100.3
田野畑村（たのはたむら）	56	55	98.4	55	98.4
岩泉町（いわいずみちょう）	47	65	137.1	65	137.1
宮古市（みやこし）	610	802	131.5	802	131.5
山田町（やまだまち）	444	492	108.6	492	108.6
大槌町（おおつちちょう）	594	659	111.1	659	111.1
釜石市（かまいしし）	780	945	121.2	945	121.2
大船渡市（おおふなとし）	810	853	105.3	853	105.3
陸前高田市（りくぜんたかたし）	1,665	1,683	101.1	1,683	101.1
計	5,253	5,837	111.1	5,837	111.1

注1 がれき推計量：岩手県災害廃棄物処理詳細計画（平成25年5月第二次改訂）で見込んだがれきの量。（H26.3.31現在）

注2 搬入量：市町村を通じて把握がなされた、仮置場へ搬入されたがれきの量。

注3 処理量：有価売却、原燃料利用、焼却やセメント焼成、埋立処分等により処理されたがれきの量。なお、災害廃棄物については、平成26年3月末をもって処理を終了したが、破碎・選別施設の解体・撤去や仮置き場の返還等事後的な業務は平成26年4月以降も継続している。

※ 端数処理により合計と一致しない場合がある。

2 原発放射線影響対策事業

(1) 生活空間の放射線量

(H26.3.31現在)

	平成25年度計画値	平成25年度実績値
県内主要地点の庁舎及び公園等測定件数	660件	660件

(2) 牧草地の除染

(H26.3.31現在)

	目標値※	実績値（累計）	進捗率
牧草地の除染着手面積	13,350ha	10,037ha	75.2%

※ 目標値は、H23～26に実施予定の国の暫定許容値（100Bq/kg）を超過する牧草地16,071haと原乳対策として除染（50Bq/kg超過100Bq/kg以下）する牧草地260haの合計から耕起不能箇所及び耕起困難箇所の2,981haを除いた面積。

(3) 県有施設等の除染

一関市、奥州市及び平泉町では、汚染状況重点調査地域指定を受け、除染実施計画を策定しています。汚染状況重点調査地域内にある県立学校では、16 校中 4 校が面的な除染対象となっており、平成 24 年 9 月 28 日付で国から補助金の交付決定が得られ、除染に着手し、平成 25 年 5 月までに 4 校全てが完了しました。

なお、「放射線量低減に向けた取組方針」（平成 23 年 9 月岩手県）に基づき、空間線量率が局所的に毎時 1 マイクロシーベルトを超えた場合には、除染等の低減措置を行います。

(H26.3.31 現在)

(4) 県産食品の放射性物質濃度検査状況

(H26.3.31 現在)

	平成 25 年度検査実績値	うち、基準値超過件数
県産食品の放射性物質濃度検査件数	26,815 件	17 件

3 まちづくり（面的整備）事業の進捗状況

(1) 市町村におけるまちづくり事業の取組み

沿岸 12 市町村では、復興計画等（基本計画、復興実施計画）に基づき、復興交付金の配分を受けながら、被災した各地域において都市再生区画整理事業などのまちづくり（面的整備）の計画策定や事業の実施に取り組んでいます。

県では、今後も、各市町村におけるまちづくり事業推進のための支援を継続していきます。

(2) 岩手県内市町村におけるまちづくりに関連する面的整備事業の状況

復興交付金事業によるまちづくり（面的整備）事業の概要や、当該事業を進めている地区は、次頁のとおりです。

(H25.3.31 現在)

○復興まちづくり（面的整備）事業の概要

・都市再生区画整理事業

被災した市街地の復興を図るため、原位置での嵩上げ等による復興を基本としている地区や、移転の受け皿となる地区において、市街地としての公共施設や宅地を計画的かつ一体的に整備する事業です。

・防災集団移転促進事業

災害が発生した地域または災害危険区域のうち、住民の居住に適当でないと認められる区域内にある住居を安全な住宅団地等に集団的移転を行う事業です。

・津波復興拠点整備事業

被災した地域の復興を先導する拠点とするため、住宅、公益施設、業務施設等の機能を集約させ、津波に対し安全な市街地を整備する事業です。

・漁業集落防災機能強化事業

被災地域の円滑かつ迅速な復興を図るため、被災地域の漁業集落において安全・安心な居住環境を確保するための地盤嵩上げ、生活基盤や防災安全施設の整備等を行う事業です。

1 安全の確保－Ⅰ 防災のまちづくり

○市町村別・事業別事業実施地区

(H26.3.31 現在)

事業名 市町村名	都市再生 区画整理事業	防災集団移転 促進事業	津波復興拠点 整備事業	漁業集落防災 機能強化事業
洋野町	—	—	—	八木
久慈市	—	—	—	久慈湊・大崎、元木沢、 玉の脇、久喜
野田村	城内 ^{※注1}	城内、米田・南浜	—	下安家、中沢
普代村	—	—	—	堀内・沢
田野畑村	—	—	—	羅賀、島越
岩泉町	—	—	—	小本
宮古市	田老、野原、 鎌ヶ崎・光岸地	田老、崎山、高浜・金浜、 法の脇、赤前	中心市街地、 津軽石	撰待、堀内、浦の沢・追 切、 音部・荒巻、重茂里、 干 鶏、女遊戸、白浜、石浜
山田町	山田、 山田(低地部)、 織笠、大沢	山田、織笠、船越・田の浜、小谷鳥	山田	大浦、大沢
大槌町	町方、安渡、 赤浜、吉里吉里	浪板1、吉里吉里1、吉里吉里2、 吉里吉里3、赤浜1、赤浜2、赤浜6、 安渡1、安渡2、安渡3、安渡4、安渡5、 寺野、大ヶ口・沢山・夏本・碓内・屋敷 前、町方、小枕、花輪田	町方、安渡	吉里吉里、浪板、赤浜、 安渡
釜石市	片岸、鶴住居、 燗石松原、平田	室浜、根浜、箱崎、箱崎白浜、桑ノ 浜、両石、尾崎白浜、花露辺、本郷、 唐丹、荒川	鶴住居、東部	花露辺、室浜、仮宿、 桑ノ浜、大石、新浜町、 佐須、根浜、箱崎、両石、 箱崎白浜、尾崎白浜、本 郷、唐丹
大船渡市	大船渡駅周辺	大船渡、峰岸、平林、上山、鶴巻、 神坂、細浦、小細浦、梅神、門之浜、 泊里、佐野、中赤崎、永浜、清水、 蛸ノ浦、田浜、港・岩崎、泊、浦浜南、 浦浜沖・西、浦浜東・甫嶺、崎浜	大船渡	越喜来(浦浜)
陸前高田市	今泉、高田	月山、上長部、双六、粟谷、福伏、下矢 作、館、下沢、高田、今泉、堂の前、脇 の沢、両替、三日市、柳沢、茂里花、 新田、只出、長洞、大野、広田大野、田 谷、六ヶ浦、泊、中沢、久保	高田北(高田 西・高田東)、 高田南(仮称)	—
合計	7市町村 19地区	7市町村 88団地 ^{※注2}	6市町 10地区	11市町村 41地区
工事着手地区 数	17地区	56団地	5地区	20地区
工事完成地区 数	1地区	18団地	—	11地区
全部完成	—	13団地	—	9地区
一部完成	1地区	5団地	—	2地区

※ 工事着手地区は○○○(斜め文字)、一部完成地区は◇◇◇(下線)、全部完成地区は△△△(箱囲み)。

※ 工事着手地区数には、一部着手地区、全部完成・一部完成地区を含む。

※注1 区画整理事業での完成の取扱いは、使用収益開始によるものとし、一部で使用収益開始した城内地区を一部完成地区として取扱うもの。

※注2 防災集団移転促進事業は、52地区(88団地)で大臣同意を得て計画がほぼ固まったことから、よりきめ細かな進捗状況をお知らせするため、今後は団地数で表示することとしたもの。

4 海岸保全施設整備事業

海岸地域の安全性を向上させるため、海岸保全施設の復旧・整備を推進しています。

○海岸保全施設の復旧・整備状況

事業主体	復旧・整備計画箇所数	着手箇所数	完了箇所数
県	105 箇所	94 箇所	21 箇所
市町村	29 箇所	11 箇所	1 箇所
合計	134 箇所	105 箇所	22 箇所

(H26.3.31 現在)

5 防災拠点等再生可能エネルギー導入事業

非常時等においても一定のエネルギーを賄えるシステムの構築に向けて、市町村等の防災拠点や避難所に指定される公共施設・学校、病院等に対し、再生可能エネルギー設備の導入を推進しています。

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
市町村への補助施設数	238 施設	150 施設	63.0%

(H26.3.31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

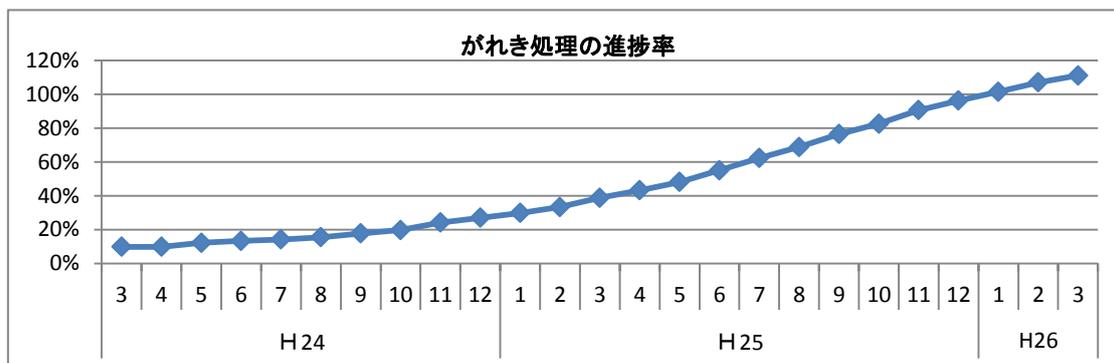
【がれき】

●がれき処理の進捗率（沿岸）〔平成26年3月31日：111.1%（進捗率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.4末)	第6回 (H25.4末)	第10回 (H26.3末)	単位
9.8%	43.2%	111.1%	進捗率	51.4	227.2	583.7	万トン

平成26年3月31日までのがれき処理量は583.7万トンであり、災害廃棄物推計量（525.3万トン）に対するがれき処理の進捗率は111.1%となっている。

なお、災害廃棄物については、平成26年3月末をもって処理を終了したが、破碎・選別処理施設の解体・撤去や仮置き場の返還等の事後的な業務は平成26年4月以降も継続している。



【まちづくり】

●まちづくり（面整備）の進捗率（沿岸）〔平成26年3月31日：3%（進捗率）〕

指標				データ（累計）			
— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	項目	— (H25.7末)	— (H25.12末)	第10回 (H26.3末)	単位
0%	1%	3%	進捗率	5	96	251	区画

平成26年3月31日現在の復興まちづくり（面整備）事業における宅地の完成区画数は251区画であり、宅地供給予定区画数8,291区画に対する進捗率は3%となっている。

【防災】

●津波防災施設の整備率（沿岸）〔平成26年3月31日：26.7%（整備率）〕

指標				データ（累計）			
第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	項目	第2回 (H24.3末)	第6回 (H25.3末)	第10回 (H26.3末)	単位
25.1%	25.4%	26.7%	整備率	17.9	18.1	19.0	km

平成26年3月31日現在の「新しい津波防災の考え方」に基づいた津波防災施設の整備済総延長は19.0kmであり、要整備区間総延長71.3kmに対する整備率は26.7%となっている。

【交 通】

●交通事故件数（沿岸）[-] [平成 26 年 1～3 月： -23.1%（前年同期間比）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 1-3)	第 6 回 (H25. 1-3)	第 10 回 (H26. 1-3)	項目	第 2 回 (H24. 1-3)	第 6 回 (H25. 1-3)	第 10 回 (H26. 1-3)	単位
+16.5%	-14.2%	-23.1%	前年同期間比	141	121	93	件

平成 26 年第 1 四半期（平成 26 年 1 月～3 月）における沿岸部の交通事故件数は 93 件であり、前年同期間比で 23.1%減となった。

【放射能】

●地表付近の放射線量（盛岡）[-] [平成 26 年 4 月 2 日： -0.01 μ Sv/h（前年同月差）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	項目	第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	単位
—	+0.00	-0.01	前年同月差*	0.05	0.05	0.04	μ Sv/h

*復興インデックスでは「前回差」（第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値）を表示している。

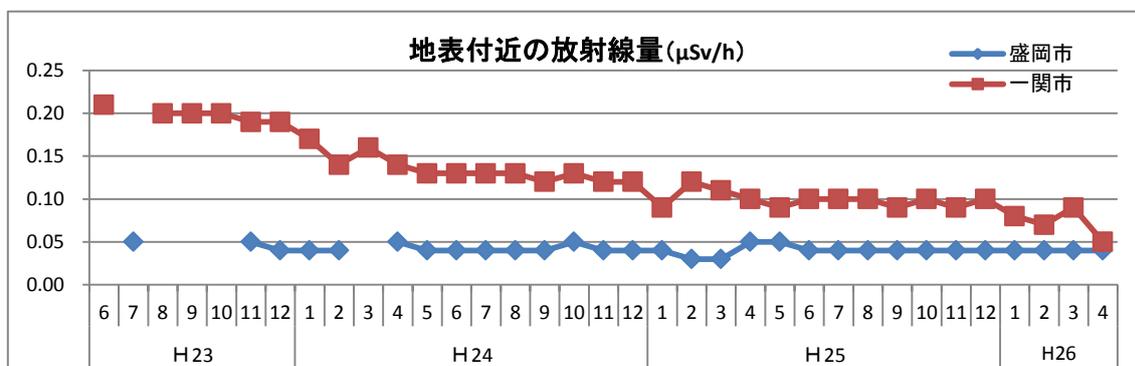
盛岡（盛岡市役所、地上 50cm）における放射線量は、直近 2 年間は概ね 0.04～0.05 μ Sv/h（マイクロシーベルト/時間）で推移しており、平成 26 年 4 月 2 日測定結果は、前年同月から 0.01 μ Sv/h 減の 0.04 μ Sv/h であった。

●地表付近の放射線量（一関）[-] [平成 26 年 4 月 7 日： -0.05 μ Sv/h（前年同月差）]

指標				データ			
第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	項目	第 2 回 (H24. 4)	第 6 回 (H25. 4)	第 10 回 (H26. 4)	単位
—	-0.04	-0.05	前年同月差*	0.14	0.10	0.05	μ Sv/h

*復興インデックスでは「前回差」（第10回の指標は、第10回データから第9回データを減じた値）を表示している。

一関（一関市役所、地上 50cm）における放射線量は時間の経過と共に徐々に低減してきており、平成 26 年 4 月 7 日測定結果は、前年同月から 0.05 μ Sv/h 減の 0.05 μ Sv/h であった。



県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇災害時の避難経路の整備や迅速な避難が可能な仕組みづくり

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.61、進捗への実感は 2.39 となっている。復興促進ニーズ度は減少して 2.23 だが、順位は 6 位と上昇を続けている。また、地域別に見ると、内陸部で 11 位、沿岸部で 3 位と順位の大きな乖離（内陸部<沿岸部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.61	4.68	4.70	2.39	2.11	2.16	2.23 (6)	2.57 (8)	2.54 (13)
沿岸部	4.63	4.67	4.72	2.33	2.09	2.07	2.31 (3)	2.58 (3)	2.65 (8)
沿岸北部	4.63	4.57	4.69	2.85	2.43	2.39	1.78 (9)	2.14 (7)	2.29 (10)
沿岸南部	4.63	4.70	4.73	2.13	1.96	1.95	2.50 (2)	2.75 (3)	2.78 (8)
内陸部	4.61	4.68	4.70	2.40	2.11	2.18	2.20 (11)	2.57 (10)	2.51 (16)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇防潮堤や防波堤などの整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.47、進捗への実感は 2.29 とやや低い。復興促進ニーズ度は 2.18、順位は 11 位と下降している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.47	4.62	4.65	2.29	1.79	1.79	2.18 (11)	2.82 (3)	2.86 (4)
沿岸部	4.47	4.68	4.69	2.41	1.99	1.78	2.06 (10)	2.69 (2)	2.91 (2)
沿岸北部	4.64	4.75	4.74	2.99	2.34	2.13	1.65 (13)	2.41 (5)	2.60 (4)
沿岸南部	4.40	4.65	4.67	2.19	1.84	1.64	2.21 (6)	2.81 (2)	3.03 (3)
内陸部	4.46	4.60	4.65	2.26	1.74	1.79	2.21 (10)	2.86 (4)	2.85 (4)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇放射能への安全対策

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.62、進捗への実感は 2.07 となっている。復興促進ニーズ度は減少して 2.55 だが、順位は 2 位と上昇を続けている。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.62	4.63	4.68	2.07	1.94	1.89	2.55 (2)	2.70 (5)	2.79 (6)
沿岸部	4.56	4.56	4.58	2.12	2.00	1.97	2.44 (2)	2.56 (4)	2.61 (9)
沿岸北部	4.61	4.60	4.68	2.23	2.01	2.01	2.38 (1)	2.59 (1)	2.68 (2)
沿岸南部	4.53	4.54	4.54	2.07	2.00	1.96	2.47 (3)	2.54 (5)	2.58 (13)
内陸部	4.64	4.65	4.70	2.06	1.92	1.87	2.58 (3)	2.73 (5)	2.83 (5)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇震災の記憶を未来に語り継ぐための取組

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.48、進捗への実感は 2.97、復興促進ニーズ度は 1.50 で、順位は昨年と同程度の 25 位で推移している。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.48	4.58	4.66	2.97	2.80	2.78	1.50 (25)	1.78 (26)	1.88 (25)
沿岸部	4.48	4.57	4.70	2.85	2.71	2.65	1.64 (19)	1.86 (22)	2.05 (23)
沿岸北部	4.47	4.53	4.69	3.13	2.79	2.79	1.35 (21)	1.74 (21)	1.89 (23)
沿岸南部	4.49	4.59	4.70	2.74	2.68	2.59	1.75 (19)	1.91 (22)	2.11 (23)
内陸部	4.47	4.58	4.65	3.01	2.83	2.81	1.47 (26)	1.76 (26)	1.84 (26)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

II 交通ネットワーク 1 安全の確保

第1期復興実施計画の「事業進捗」に係る出典データ

復興実施計画（第1期）の施策体系・事業に基づく進捗状況〔平成26年5月26日〕

区分	対第1期末目標進捗率
A	100%以上
B	100%未満 80%以上
C	80%未満 60%以上
D	60%未満

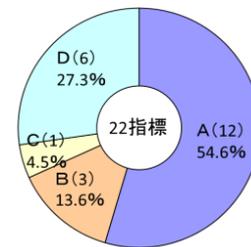
分野全体

第1期末目標に対する進捗率

- ・「A」及び「B」（80%以上） 68.2%（15指標）
- ・「C」及び「D」（80%未満） 31.8%（7指標）

実質的遅れ 27.3%（6指標）

【対第1期末目標】



復興実施計画における主な取組の進捗状況（平成26年4月）〔平成26年4月24日〕

1 復興道路整備事業

路線名	計画延長 (km)	供用中		供用中+事業中	
		延長 (km)	率 (%)	延長 (km)	率 (%)
三陸沿岸道路	213	61	29 %	213	100 %
東北横断自動車道釜石秋田線	80	54	68 %	80	100 %
宮古盛岡横断道路	100	8	8 %	66	66 %
合計	393	123	31 %	359	91 %

(H26.3.31 現在)

2 復興支援道路整備事業（改築）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に 対する進捗率
復興支援道路の整備完了箇所数	8箇所	9箇所	112.5 %

(H26.3.31 現在)

3 復興関連道路整備事業（改築）

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に 対する進捗率
復興関連道路の整備完了箇所数	6箇所	4箇所	66.7 %

(H26.3.31 現在)

4 三陸鉄道災害復旧事業

	第1期に掲げる 目標値	実績値（累計）	第1期目標に対する 進捗率
三陸鉄道の復旧延長	82.1 km	82.1 km	100.0 %

(H26.3.31 現在)

復興状況を示す「客観指標」に係る出典データ

いわて復興インデックス報告書（第10回）〔平成26年5月26日〕

【交通】

●復興道路の供用率（県）〔平成26年4月30日：31%（供用率）〕

指標				データ（累計）			
— (H24.4末)	— (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	項目	— (H24.4末)	— (H25.4末)	第10回 (H26.4末)	単位
20%	28%	31%	供用率	79	110	123	km

平成26年4月30日現在の復興道路整備事業における供用延長は123kmであり、計画延長393kmに対する供用率は31%となっている。

※復興道路＝三陸沿岸地域の縦貫軸と、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等として、以下の路線を位置付けている。

- ・三陸沿岸道路（三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道）
- ・東北横断自動車道釜石秋田線
- ・宮古盛岡横断道路（国道106号）

県民の復興の実感を示す「県民意識」に係る出典データ

平成 26 年 復興に関する意識調査〔平成 26 年 4 月 24 日〕

◇災害時にも使える信頼性の高い道路網の整備

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.65、進捗への実感は 2.48 となっている。復興促進ニーズ度は 2.17 で、順位は昨年と同程度の 12 位で推移しているが、これを地域別に見ると、内陸部で 13 位、沿岸部で 5 位と順位の大きな乖離（内陸部<沿岸部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.65	4.67	4.71	2.48	2.24	2.17	2.17 (12)	2.43 (14)	2.54 (12)
沿岸部	4.75	4.78	4.80	2.50	2.22	2.00	2.25 (5)	2.55 (5)	2.80 (6)
沿岸北部	4.66	4.69	4.68	2.83	2.56	2.26	1.83 (7)	2.14 (8)	2.42 (6)
沿岸南部	4.79	4.81	4.85	2.39	2.09	1.91	2.40 (4)	2.72 (4)	2.94 (6)
内陸部	4.62	4.64	4.69	2.48	2.24	2.22	2.15 (13)	2.39 (16)	2.47 (18)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

◇JRや三陸鉄道などの鉄道網の復旧

平成 26 年の調査結果では、県全体で、重要度は 4.48 となっている。進捗への実感は 2.70 と昨年より 0.68 ポイント上昇している。復興促進ニーズ度は 1.78 と昨年度より 0.70 ポイント下降、順位も 22 位まで下降しているが、これを地域別に見ると、沿岸北部で 27 位、沿岸南部で 13 位と順位の大きな乖離（沿岸北部<沿岸南部）が見てとれる。

	重要度			進捗への実感			復興促進ニーズ度		
	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年	平成25年	平成24年	平成26年 (順位)	平成25年 (順位)	平成24年 (順位)
県全体	4.48	4.50	4.55	2.70	2.02	1.83	1.78 (22)	2.48 (11)	2.73 (8)
沿岸部	4.33	4.44	4.52	2.66	2.20	1.81	1.67 (18)	2.24 (11)	2.71 (7)
沿岸北部	4.57	4.61	4.62	3.60	2.98	2.71	0.97 (27)	1.63 (24)	1.91 (22)
沿岸南部	4.24	4.37	4.48	2.29	1.86	1.44	1.95 (13)	2.51 (6)	3.05 (2)
内陸部	4.52	4.52	4.56	2.72	1.97	1.83	1.80 (23)	2.55 (11)	2.73 (8)
(県全体全項目平均)	4.50	4.54	4.57	2.53	2.23	2.15	1.96	2.31	2.42

〔用語の説明 復興に関する意識調査〕

復興促進ニーズ度：次式により、「重要度」の値から「進捗への実感」の値を減じて算出する。

$$\text{「復興促進ニーズ度」} = \text{「重要度」} - \text{「進捗への実感」}$$

重要度が高く、住民の復旧・復興の実感が低い状態を復興を急ぐニーズが高いと読む。

なお、順位は調査を行った 29 項目の中で数値が高い順位。

